

大正末期の面影を残す建物

## 旧北星女学校宣教師館

さつぱろ・ふるさと文化百選にも選ばれている『旧北星女学校宣教師館』について紹介します。

北星学園の校舎に囲まれるように、鮮やかなからし色とラベンダー色に塗られた木造三階建ての建物があります。この建物は、手稲山のパラダイスヒュッテのほか、さまざまな建物の設計を手掛けたスイス人の建築家、マックス・ヒンデルの設計で、大正十五年（一九二六年）に宣教師の住居として造られました。

ここに最初に住んだのは、北星女学校（今の北星学園）の校長であったアリス・モード・モンクといわれています。音楽室として使われていたこともありましたが、戦前戦後を通じて多くの宣教師が生活しました。

建物の間取りは当時のままで、現存している家具は多くはありませんが、両面引き出しつきの机や足台付きのいすなどが残っています。展示してあるオ

ルガンは、学園の創設当初からあるもので今も昔と同じ音色を奏でます。また、札幌で一番古いといわれる、かつてこの学園に植えられていたライラックの一部が、平成六年に、北大植物園から記念館の前に里帰りしました。

現在は「北星学園創立百周年記念館」という資料館になっていて、四月から十月まで一般にも公開されています。

（平成六年十月号・第十五回）



北星学園創立百周年記念館（旧北星女学校宣教師館）